

―建築の持つ力を活かすことを考えるシンポジウム―

地域のたからを、地域にひらく

しょうもん
松門文庫の可能性

「松本市地域チャレンジ応援事業補助金交付事業」

申込フォーム



大正8年竣工当時の松門文庫（5月11日開催の開館記念園遊会で配布された記念絵葉書をレタッチ）

令和8年1月24日(土)13:30～16:00 ◇入場無料◇
(開場13:00)

会場：浅間温泉文化センター(多目的ホール)

※駐車台数に限りがあります。できるだけ公共交通機関をご利用ください。

浅間温泉にある松門文庫は、蚕種製造業家の二木洵氏が、実父で長野県における自由民権運動の先駆者である窪田畔夫氏の蒐集した書画などを地域に広く公開するために建てた、擬洋風建築の流れをくむ私設図書館です。松本の近代化の歴史を語り伝えるこの建物は、現在では再現することが容易でない、まさに「地域のたから」と呼ぶにふさわしい近代建築と言えるでしょう。この「地域のたから」を、ふたたび「地域にひらく」には…。一緒に考えてみませんか。

◆◆申込み・問合せ◆◆

申込フォームまたは、1/13日～
080-1227-3927(米山)まで。
<https://forms.gle/S7b3YAkYGWkAeZNTA>



おおうちおさむ氏

多摩美術大学美術学部グラフィックデザイン学科卒。
故・田中一光に師事、2003年に有限会社ナノグラフィックスを設立。平面と空間の相乗効果を創作の軸に置き、国内外問わず幅広い活動を展開。2022年、総合ディレクターとして松本建築芸術祭を立ち上げる。2023年より松本市立博物館のアソシエイトプロデューサー。東京藝術大学非常勤講師。



梅干野成央(ほやのしげお)氏

2002年信州大学工学部建築学科卒。2004年信州大学大学院工学系研究科修了。2007年信州大学大学院総合工学系研究科修了。博士(工学)
2004年信州大学助手、2007年助教を経て、2014年より准教授。専門は日本建築史学。
「土地に根ざした建築の文化を未来へと伝えたい」と、建築文化を歴史的に解明する研究に取り組む。